

は し が き

1. 当研究所は、平成13年度の委託研究として、「IT革命と安全保障」を外務省より受託したが、本報告書はその研究成果を取りまとめたものである。
2. 今日、IT（情報技術）革命の積極的な側面が強調される中、情報通信ネットワークの脆弱性を突いたサイバーテロやハイテク犯罪など新しいタイプの脅威は、企業や個人の利益に対してのみならず国家の安全保障にとっても重大な挑戦になりつつある。これらの脅威は、テロの主体・手法・被害規模、あるいはそれへの対策のすべてにおいて従来の発想の転換を我々に迫ることから、新しい安全保障・危機管理政策が求められる。本研究では、情報技術分野の発展によってもたらされる新しい脅威の性質を理解し、安全保障及び危機管理の観点から、わが国政府としての体制のあり方や政府と民間の協力の形態、国際的な規制レジームの必要性などにつき研究した。
3. 本研究の実施にあたっては、下記の委員を中心に研究会を重ねた。（敬称略）

| | | |
|----------|-------|--|
| 主査（幹事兼任） | 星野 俊也 | 大阪大学大学院国際公共政策研究科助教授 兼 当研究所客員研究員 |
| 委員 | 岡田 仁志 | 国立情報学研究所 人間・社会情報研究系 情報制度論研究部門 文部科学教官助教授 |
| | 加藤 朗 | 桜美林大学国際学部教授 |
| | 川上 高司 | 北陸大学法学部教授 兼 当研究所客員研究員 |
| | 高橋 克秀 | 三和総合研究所調査部主任研究員 |
| | 矢澤修次郎 | 一橋大学大学院社会学研究科教授 |
| 担当助手 | 三瓶 裕子 | 当研究所アメリカ研究センター研究助手 |
4. ここに表明されている見解は、すべて各執筆者のものであって、当研究所の意見を代表するものではないが、本報告書の内容が本件テーマに関心を持つ関係者の活動に資することを期待している。
5. 最後に、本研究に終始積極的に取り組まれ、本報告書の作成にご尽力いただいた執筆者各位並びにその過程で御協力いただいた関係各位に対し、改めて深甚なる謝意を表したい。

平成14年 3月

財団法人 日本国際問題研究所
理事長 小和田 恆

目 次

| | |
|--|----|
| 要 約 | i |
| 第一章 サイバー空間における脅威と安全保障・危機管理のあり方 [星野 俊也] | 1 |
| 1 . はじめに | 1 |
| 2 . サイバー空間における脅威 | 1 |
| 3 . サイバー空間の脅威の実態 | 3 |
| 4 . サイバー空間の脅威への安全保障と危機管理 | 8 |
| 5 . 付録 | 13 |
| 第二章 情報通信ネットワークに対する脅威の実態 [岡田 仁志] | 16 |
| 1 . はじめに | 16 |
| 2 . 情報通信ネットワークの高度利用と脅威の拡大 | 16 |
| 3 . ハッカーおよびサイバーテロリストの攻撃環境 | 17 |
| 4 . 通常的なハッキング行為の具体的なツール群 | 18 |
| 5 . サイバーテロ予備軍としての若年層ハッカー | 22 |
| 6 . 米国における重要インフラ保護の現状 | 24 |
| 7 . 通信傍受網によるセキュリティ対策とその課題 | 24 |
| 第三章 サイバー脅威と日本の安全保障 [加藤 朗] | 26 |
| 1 . はじめに | 26 |
| 2 . サイバー脅威とは何か | 26 |
| 3 . サイバー攻撃の限界 | 29 |
| 4 . 日本のサイバー攻撃対策 | 32 |
| 5 . まとめ | 33 |
| 第四章 テロリストの情報戦争 (IW) と日米協力 [川上 高司] | 35 |
| 1 . ビン・ラディンの情報戦争 | 35 |
| 2 . 情報戦争とは | 36 |
| 3 . サイバー・テロリストの戦略情報戦 (SIW) | 38 |
| 4 . SIW の問題点とその対策 | 43 |
| 5 . SIW での日米協力 | 44 |

| | | |
|---------|----------------------------------|----|
| 第五章 | 世界のIT集積と国際的相互依存 | |
| | ソフトウェア産業のグローバル・リンケージ [高橋 克秀] | 49 |
| 1. | はじめに | 49 |
| 2. | インド 世界のソフトウェア供給基地 | 50 |
| 3. | 米印ソフトウェア産業の相互依存 | 53 |
| 4. | 中国 バランスのとれたソフトとハード | 55 |
| 5. | 進化するシリコンバレー | 58 |
| 6. | マレーシア マハティールの夢をかけた国家実験 | 61 |
| 7. | おわりに | 64 |
| 第六章 | ネットワーク社会化と紛争形態の変化 | |
| | ハードな安全保障からソフトな安全保障へ [矢澤 修次郎] | 66 |
| 1. | はじめに | 66 |
| 2. | サイバーウォーからネットウォーへ | 66 |
| 3. | ハードな安全保障からソフトな安全保障へ | 67 |
| 4. | 情報社会における戦争 | 70 |
| 5. | ネット(サイバー)ウォーの実態 | 73 |
| 6. | ネット(サイバー)ウォー、ネット(サイバー)テロリズムは防げるか | 76 |
| 7. | おわりに | 77 |
| < 講演録 > | | |
| | 情報セキュリティの現状と動向 [上田 正尚] | 79 |
| 1. | はじめに 情報セキュリティの背景 | 79 |
| 2. | 米国、欧州、日本における情報セキュリティの施策 | 80 |
| 3. | 情報セキュリティの法的問題 情報化の進展と法制度 | 84 |
| 4. | セキュリティ評価制度 | 85 |
| 5. | わが国の情報セキュリティへの提言 | 86 |
| | 法的側面から見たサイバーテロ [橋本 靖明] | 87 |
| 1. | はじめに | 87 |
| 2. | サイバーテロ | 88 |
| 3. | サイバーテロと法制度 | 89 |
| 4. | まとめ | 94 |